

北コーカサス内でのイスラーム主義の急進化と拡大

——青年ジャマーアトが果たした役割——

小野 瑞絵

チェチェン・ナショナリズムで始まったチェチェン紛争は二度に及ぶ紛争の中で対立軸の移行が複数回おこり、最終的に汎コーカサス・ジハードへとイデオロギー移行が起こった。本報告はこのイデオロギー移行と北コーカサス地方における急進的イスラーム主義の拡大に「青年ジャマーアト」がどのような役割を果たしたか明らかにする事を目的とした。

既存の先行研究の多くは個別のジャマーアトの急進化の過程に焦点をあてている。本報告では既存の「青年ジャマーアト」の研究を発展させ、「青年ジャマーアト」の連携とチェチェン紛争との相互介入が北コーカサス内でのイスラーム主義の急進化と拡大に大きな影響を与えた点に注目した。具体的には個別のジャマーアトの中でそれぞれ急進化が起こり、同時に進んでいた「青年ジャマーアト」の連携とチェチェン紛争への介入がチェチェン紛争という限定した地域の分離・独立運動をジハード運動へとイデオロギー移行させ、地理的にもジハード運動の領域を北コーカサス全体に拡大させる結果となったことを明らかにした。

本報告の構成は次のようなものである。まず導入に青年ジャマーアトとは何かについて説明した。次に、当時影響力の大きかった二つの青年ジャマーアト、①シャリーアト・ジャマーアト（ダゲスタン）と、②カバルダ・バルカル・ジャマーアトの二つの事例研究を通し、当初穏健派とされていた二つの青年ジャマーアトが急進化していく過程を分析した。この二つの青年ジャマーアトのイデオロギー移行の過程の分析により、青年ジャマーアトの相互連携とチェチェン紛争への介入が同時に進行していたことを明らかにした。最後にこの連携と介入が紛争のイデオロギー移行とジハード運動の地理的拡大に大きな役割を果たした事を明らかにした。結論は次の四つの点にまとめられる。①青年ジャマーアトの介入がコーカサス首長国の建国につながった。②コーカサス首長国建国時点では、第一次チェチェン紛争開始当時からのチェチェン人勢力よりも、周辺共和国の青年ジャマーアトの勢力が強くなっていた。③チェチェン共和国の独立という分離独立運動を、その相互介入により北コーカサス全体のジハード運動へと移行させたのは青年ジャマーアトである。④すでに北コーカサス全体に薄く広く勢力を拡大していた「青年ジャマーアト」の言説がまず初めに急進化し、「暴力

的手段の許容、ジハード主義」を言説にとりいれた。その後、青年ジャマーアトの言説がコーカサス首長国の言説に反映される事により、北コーカサス全体の急進化と拡大が進行した。

資料は指導者達が残した手紙や論文、声明を使用した。会場からは、「急進化」や「イスラーム主義」の定義について慎重に取り扱う必要性を指摘された。

今後の課題は、青年ジャマーアトのイデオロギー移行における正当化の言説についてのより深い考察である。報告者は正当化の言説を分析する事により、穏健派イスラーム主義者の思想の根幹となるものを解明していきたい。これにより、なぜある種の穏健派集団がジハード主義者へ変貌するという事象が起こるのか、説明を試みたい。

(北海道大学)